

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（11月分）

留学先大学：ラトガース大学

氏名：内藤 来

<はじめに>

国際地域学部の内藤です、3ヶ月が経過しました。今回は留学先であるラトガース大学でこれまでに気づいた良いところについて書こうと思います。

<1. 授業の種類が多い>

ラトガースは州立大学であり、かつ生徒数が5万人近くいる大規模な大学です。そのため授業の種類がとても多いです。僕の感覚で言えば、選択肢は福井大学で選ぶよりも10倍くらい多いように感じます。履修登録をする際にインターネットで授業を探すのですが、例えば政治とキーワードを打ち込むとそれに関連する授業が50個程度出てきます。日本と打っても10個当たりのクラスがヒットします。交換留学生は比較的留学中に卒業認定単位のことをあまり気にしていない人が多いと思うので、そのような人にとっては最高の環境だと思います。また国際地域学部限定して言うと多くの人は専攻があまりはっきりしていないと思うので、卒論を意識し始める前にラトガースに留学することは自分の専門分野を見つけるチャンスになると思いますし専門分野が決まっている人でも、福井大学では受けることのできない種類の授業がラトガースには多くあるのでその分野における知識をさらに深めることができます。



<2. 人種の多様性>

以前の報告書でも記述したように、ラトガースにいる生徒は人種、国籍含め非常に多様化しています。日ごろからそのような環境に身を置けることは異文化への理解を自然に高めることができると思いますし、日本人としての自分のアイデンティティーや文化をより相対的に見ることができると思います。もちろんアジア人はいたるところにいるので疎外感を感じることはないと思いますし、現地生徒も普通に接してくれます。行く前は正直人種差別などに対して身構えていた部分があったのですが、少なくともラトガースでそのような心配はしなくてもいい

ように思います。日本人は確かに生活していて少ないですが、自分の感覚で言うと日本の生活と何も変わっていません。普通の大学生活です。

福井大学では基本的に留学生以外はいわゆる純日本人ですが、ラトガースではニュージャージーから通っているアメリカ人生徒の中でも人種は様々です。アメリカ人の中での人種の多様性と、留学生が生む多様性がありそれらを日々の中で観察することができたらとても面白いと思います。ちなみに中国人と韓国人の留学生はとても多いのですが、日本人はとても少ない（知ってるうちで6-7人程度）ので、いい意味でコミュニティは作りやすいと思いますし、現地生徒もとても興味を持ってくれると思います。

< 3. 東アジア学部 >

ラトガース大学には東アジア専攻があり（East Asian Studies）、今年から日本と韓国もそこから独立して専攻として選べるようになりました。そのため日本語を勉強している生徒や、日本文化に興味がある生徒が多くいます。日本語会話クラブというクラブもあり活動しているようなので現地で友達を作る良い環境がそろっていると思います。ルームメイトも時々そのクラブに参加しているようです。正直なところ授業内で友達を作るのはラトガースではかなり難しいと感じています。この理由はまた後の報告書で触れたいと思います。日本人の先生も数人いて教師として働いています。先生は皆さん親切ですし、なにかあれば日本語で相談できる人が学内にいるというのは心強いです。

< 4. 交換留学オフィス >

ラトガースの交換留学オフィス（福井大学で言う国際課）は非常に親切でかつ反応がとても速いです。メールの返信も基本的にその日のうちか次の日には帰ってきます。日本で言うところの当たり前のように感じても、現地で返信が遅いことがあったりするととにかく不安になると思うので、この点については安心できると思います。

< おわりに >

今回はラトガースの良い面について報告書をまとめました。次回の報告書ではラトガースの不便な点やについて書こうと思います。

